

平成 30 年 2 月 22 日時点

(1) 事務事業の概要				
① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない			
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 25 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 〇〇 年度～ 平成 〇〇 年度まで	●「学校図書館司書の配置」→学校教育の教育内容の充実を目的に、学校図書館司書を各小学校に配置する。学校図書館の環境を整え、市内小学校児童が図書に触れ合う機会を充実させる。 ●平成27年度からは毎週1日各校に司書が巡回。 【学校図書館司書の主な業務】学校図書館の環境整備(掲示物の作成、季節に合わせた書籍コーナーの設置、図書室への関心を高める仕組み〔図書室外立〕、図書貸し出しの作成等)、蔵書管理、新書購入時の助言、図書廃棄時の助言、児童に対する図書貸し借り業務、授業の中で扱う書籍の収集、準備(市立図書館との連絡・調整含む)、児童に対する本のアドバイス・レファレンス、読み聞かせ、ブックトーク(数冊の本を同時紹介)			
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等		
国では、平成24年度から学校司書の配置が進むうち、単年度約150億円の地方財政措置(1週当たり30時間の職員をおおむね2校に一人配置することが可能な規模の措置)をとった。それをきっかけに、旭市でも平成24年度に募集をし、平成25年度から3人体制で開始した。	平成26年6月27日に、学校図書館の職務に専ら従事する職員を「学校司書」とし位置付けて各学校に配置するよう求めた「学校図書館法の一部を改正する法律」が公布され、平成27年4月1日から施行された。これにより、「学校司書」が初めて法令に位置付けられた。	児童から「図書館司書さんど本のことを話せてよかった。もっと学校に来てほしい。」という意見があった。教職員からは、学校図書館司書配置について、「効果がある。」という意見があった(100%)。また「巡回日数を増やしてほしい。巡回日(曜日)を固定化してほしい。」といった要望があった。		

(1) 事業費の詳細(28年度の決算)		単位:千円
1.労災保険料	943	学校図書館司書3名分
2.臨時雇賃金	6,000	学校図書館司書3名分の賃金
3.普通旅費	25	千葉県教委主催の研修への参加
4.消耗品費	0	USBメモリ等
(2) 特定財源の内訳(28年度の決算)		単位:千円
1.国庫支出金	0	
2.都道府県支出金	0	
3.地方債	0	
4.その他	0	

			単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (予算)
事業費	費目内訳	1. 労災保険料	千円	576	407	875	943	1,150
		2. 臨時雇賃金	千円	3,963	4,192	5,900	6,000	6,963
		3. 普通旅費	千円	0	5	7	25	7
		4. 消耗品費	千円	38	7	1	0	15
			千円					
	事業費計 (A)		千円	4,577	4,611	6,783	6,968	8,135
	財源	1. 国庫支出金	千円					
		2. 都道府県支出金	千円					
		3. 地方債	千円					
		4. その他	千円					
5. 一般財源		千円	4,577	4,611	6,783	6,968	8,135	

従事職員数
常時
1人
最大
2人
 $\times$
12日
 $=$
延べ
24人

① 主な活動		⇒	③ 活動指標名		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
手段	28年度実績(28年度に行った主な活動)		ア	学校図書館司書一人の担当校数						
	学校図書館司書を3名採用し、市内小学校15校を巡回。学校図書館の環境整備と児童の読書指導を実施。配置に対する年2回のアンケート調査を実施。	イ	1校当たりの年間巡回回数	日	27	27	39	39	39	
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
	対象 ・学校図書館施設、図書 ・市内小学校児童 意図 ・学校図書館施設が利用しやすくなる。揭示物等を作成し、図書が探しやすくなることで、児童の図書の貸借がスムーズになる。		ア	年度末アンケート調査での肯定的評価の割合(%)						
	対象 ・学校図書館施設、図書 ・市内小学校児童 意図 ・読み聞かせや読書の授業の補助等を行い、学校図書館司書と児童の触れ合いの時間が増えることで、市内小学校児童等が、読書の楽しさや大切さを理解する		イ	1校当たりの読み聞かせの時間(年間)	時間	20	27	21	53	39

		成果向上余地		
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない
施策貢献度	大きい		②	
	普通			
	小さい			

		コスト比率		
		下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
評価結果	①			
	②	(2)		
	③			
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

年度	ア (接種済人数)	イ (接種済人数)
H25	20	20
H26	60	30
H27	60	20
H28	60	50
H29 計画	60	40

評価内容	① 進捗状況 【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)		☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難											
	② 成果の状況 【コメント】 (低下の場合、その理由)	成果指標ア 成果指標イ	成果指標 のタイプ	数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	成果動向	比較	24年度 25年度	25年度 26年度	26年度 27年度	27年度 28年度	28年度 29計画
			数値増＝成果向上	☒ 向上	☐ 横ばい	☐ 低下	ア		95.0	5.0	0.0	0.0	0.0	
							イ	20	7	△6	32	△14		
③ 今年度取組事項 (29年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容		今後の方向性	☒ 拡大 ☐ 現状維持 ☐ 見直し ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ その他()									
	30年3月(8月除く)まで	①本の読み聞かせの回数を増やす。 ②担任と学校図書館司書との連携を図り、チームによる授業を行う。		平成29年～随時	国の示す目安では、学校図書館に関する業務に従事する職員(1週当たり30時間相当)をおおむね2校に一人配置するという数値がある。(学校図書館整備5力年計画)旭市の現在の体制は、5校に一人配置なので、それに近づけていくために、学校図書館司書としての雇用者数を増加していく必要がある。									